

## 黄耆剤エキスとオウギ末の併用により 血清Crが低下した、機能的あるいは 腎摘後単腎の3例

さくらの杜診療所  
蓮田 精之

黄耆剤エキスが慢性腎不全症例の血清Crを低下させる事をH21年の本研究会で報告した。その後、Crが再上昇した際にオウギ末を追加すると、Crが再び低下する事を経験した。黄耆剤エキスとオウギ末の併用が奏功した機能的あるいは腎摘後単腎の3例について報告する（年齢はオウギ末開始当時）。

【症例1】69歳、女性。S42子宮癌にて子宮全摘術+放射線治療。右腎は萎縮。S52左尿管狭窄にて左腎瘻造設。S57腎瘻抜去。H10腎不全増悪し再造設。H14からARBとクレメジンを服用したがH19Cr3.4となり黄耆剤エキス開始。Cr2.3まで低下したがH21Cr2.5と増加。オウギ末6g追加後1.9に低下。以後Cr上昇毎にオウギ末漸増。H23年11月Cr2.2と再上昇しオウギ末30gに増量。H24年1月時点で2.0に低下。

【症例2】84歳、男性。H16前立腺癌膀胱浸潤、両側水腎症、Cr1.6で初診。MAB後、水腎症は改善したが左腎は萎縮。ARBとクレメジンにてCr1.1に低下したが、H19Cr2.0となり黄耆剤エキス追加。一時1.0まで低下したがH22Cr1.6となりオウギ末3g→6g追加。その後介護疲れで入院中に服薬中断。Cr2.1と増悪したが再開後1.1～1.3に改善。H23頭部有棘細胞癌にて5月から3回手術。8月Cr1.9まで再上昇。オウギ末増量（18g）とCa拮抗薬追加にて12月1.1と改善。

【症例3】79歳、男性。左尿管癌、IgA腎症。H20化学療法（GC）後、左腎尿管全摘。H20年12月当院受診時ARB服用中でCr1.5。不安感に対して加味帰脾湯エキスを処方したがCrは低下せず。H21オウギ末を追加したが1.7と増加。H22補中益気湯、黄耆建中湯、オウギ末6～12gに変更しCr低下。H23年9月から黄耆建中湯は中止し、オウギ末を18gに増量。11月現在、Cr1.2と安定。